

この環境の下で学ぶ北中生のできること

どの教室の授業を見に行っても、扉を開けると涼しい空気が流れ出てきます。暑さでぼーっとしている生徒や、汗を拭きながら授業を受ける生徒は一人もいません。エアコンが完備されていることの恩恵を十分に受けて、今皆さんは北中で過ごしています。

「ある温度になるとエアコンの電源が落ちてしまつて、電源が入るまでしばらく待たなければなりません。」
「エアコンを入れても、やはり三階は暑いですよ。」

市内の校長たちの声です。やはり、エアコンが後付けであつたり、十何年、数十年も経っている校舎であつたりすると、エアコンの効き具合に何らかの問題があるようです。まだ全ての教室にエアコンが設置されていない学校もあり、市内には、暑さに耐えながら学校生活を送っている児童生徒がいるのです。

このことを知って、生徒の皆さんはどう思いましたか。自分たちの置かれた立場を、どう考えましたか。新築の学校によさを改めて感じたかもしれませんか。この校舎で過ごすことができラッキーだと思つたかもしれませんか。それは素直な思いです。正直言つて、私もそういう思いはもっていませんから。

しかし、それだけではいけないとも思っています。他の学校のエアコン事情については、私たち北中関係者では何ともすることができません。だから、他の学校のことは関係ない……これも冷たい話です。何もできないけれど、何かしなければならぬ……私はそう思います。

他の校長からそれぞれのエアコン事情を聞く度に、他校が納得するような学校づくりをしなければならぬと、私はよく思います。エアコンが完備されていて快適に学校生活を送られることに見合うだけの成果を出さなければならぬと常に自分に言い聞かせています。

皆さんで言うと、授業に集中し、確実に学力をつけることです。こんなに一生懸命に取り組んでいるなら、この設備にふさわしいと思われるぐらいにすることです。それがエアコンを完備している北中生ができることではないでしょうか。

(八月二十日 記)

